

目次

- ・コミュニティセンター建設報告
- ・講演会ご案内



ゲムイースト村コミュニティセンター完成のお知らせ

昨年5月から8月まで実施いたしましたコミュニティセンター建設募金では皆様方からたくさんのご寄附を賜わり、誠にありがとうございました。総額 2,620,502 円を現地 NGO ルーネルドに送金することが出来ました。建築工事は8月に始まり、9月の医療キャンプの際には工事が着々と進んでいました。今年3月に無事完成いたしましたことを皆様にご報告申し上げます。

建設工事はルーネルドの代表者の1人であるエリアス牧師が責任を持って進めて下さいました。建設会社を通さず、自ら資材を調達し、村の人たちを直接建設労働者として雇用する形で工事を行いました。エリアス牧師が全体を把握して進めたおかげで、安価で資材を購入でき、短い工期で完成に至りました。ケニアでは物価の上昇に加えて、消費税が増税されたため、購買は大変であったことと察せられます。一般的にアフリカに送金して現地の方に仕事をお願いするようなやり方では、様々な問題が生じるものですが、ルーネルドの代表者エリアス牧師、ダグラスさん、メリーさんの3名は地域のために献身的に働いている誠実な方たちです。今回はエリアスさんがお金の使途や工事の進捗状況をきちんと把握して進めて下さったので、私たちは安心していられました。これは稀有なことと言えます。



今回は建設募金で集まった 2,620,502 円に加え、内海副理事長が個人的に託されていた 300 万円を合わせて 5,620,502 円を建設支援費として渡しました。エリアス牧師からは定期的に費用の領収書が送られてきましたので、ダグラスさんに確認しながら現金出納帳をつけていきました。3月に入って最後の領収書が送られてきたのですが、集計していくと送金した額よりもかなり多くの金額を使っていることがわかり、合計すると何と 120 万円近くオーバーしており、あまりの金額に驚いてしまいました。問い合わせしてみるとどうやら 3 人で出し合ったようでした。日本からの支援を受けながら、建物が完成しないようなことがあってはならず、かといってさらに送金を求めることもできず、自分たちで負担することにしたのでしょう。彼らにとっての負担の大きさを想うと、言葉が出ませんでした。



建設費用明細(ksh)

建設材料費	2,244,541.80	消耗品費	40,150.00
運送費	104,080.00	車両修繕費	75,300.00
人件費	3,201,494.00	雑費	129,520.00

合計 5,795,085.80ksh (約 678 万円)

## § センターの活用

以前よりご案内の通り、センターは①外来診療、②HIV等の検査と陽性者へのカウンセリングやフォロー、③情報発信や啓発活動の実施の場として活用される計画ですが、医療機関としての活用については、少し長い目で見なくてはならないようです。ルーネルドとして、医療スタッフの派遣要請、村出身の医療従事者への働きかけを行っているようですが、まだ具体的な内容については連絡がありません。僻地の村での医療は職場として魅力的とはいえないのでしょうか。

センター建設が完了したとはいえ、設備の課題は残っています。最大の問題はクリーンな水の供給ができないことです。アサンテナゴヤは事業計画として井戸の掘削を挙げており、実施可能性を探っております。他にも、家具、医療設備、医療者の住居など医療機関として備えなくてはならない物はたくさんあります。



このような状況にも関わらず、ルーネルドがセンターの建設を切望したのは、村の人々が集まる場所、正しい情報を発信し啓発するための場所が必要だからです。ルーネルドのメリーさん、ダグラスさんはHIVについての専門知識をもった職業的カウンセラーです。彼らはゲムイースト村およびダグラスさんの故郷であるアセンボ村にて啓発活動を実施しています。2人ともナイロビ在住ですので、啓発活動のたびに奥地の村まででかけなくてはならず、活動にかかる経費についてはアサンテナゴヤから支援して

います。将来的には村に帰って、センターで仕事がしたいという話も聞いておりますが、そのためには彼らも生計が立てられるようではなりません。

啓発活動の目的は、HIVについての正しい情報を伝え、HIV感染を防ぐために行うべきこと、そのために自分たちでできることを話し合うことです。コミュニティの中で男性に対して弱い立場にある女性に性感染を防ぐための知識や方法を教え、女性としての誇りを持って生きることを伝えます。男性、特に若者に対しては問題のある行動についての率直な話し合いを行います。また、HIV陽性者がお互いに話し合い、助け合うための会もあります。これらの集会に出席した人たちは、家族や周囲の人たちに学んだ内容をシェアします。そうした形で少しずつ、しかし確実に村の人たちの意識を変えていこうと、様々な取り組みを行っています。センターはそのための中核的な施設としての役割を担うことでしょうか。センターの稼働状態、医療活動、啓発活動について、今後とも皆様方にお知らせして参ります。ホームページ、ブログ、Facebookページにて情報を発信しておりますので、ぜひご覧になってください。



センターが完成したことで、私たちの支援活動はようやく入口にたどりつきました。今後もルーネルドと綿密に連絡をとりあい、自立支援のために私たちのできることを続けていく所存です。村の生活を本当の意味で変えるにはまだまだ長い道のりであると言わざるを得ません。なにとぞアサンテナゴヤの活動にご理解を賜わり、よろしくご支援下さいますようお願い申し上げます。

## 「ゲム村における HIV 感染症の現状について」

アサンテ ナゴヤ 副理事長 内海 眞

## 「ケニアの魅力と夢

### ーコミュニティプロジェクト Sawa Yume Kenyaー

澤崎 康

#### 演者 澤崎氏ご紹介

東京大学医学部保健学科卒業 東京大学大学院保健医療社会学専攻  
エイズ予防財団リサーチレジデントを経、同財団職員。

JICA の専門家としてタイ国マヒドン大学エイズセンター立ち上げに寄与。

2011 年～2013 年 ケニア保健省エイズ対策局 (NASCOP) 勤務

現在は首都大学東京、東京医療保健大学非常勤講師の傍ら、国際医療協力ボランティアとコンサルタントとして活躍。

#### 講演内容

2011 年から 2013 年までの 2 年間のケニア保健省エイズ対策局に勤務した体験をもとにアフリカを中心とした世界のエイズの現状と特にケニアについての状況をケニアの内情とともにお話いただきます。また、ご自身がアフリカ・ケニア勤務でアフリカの虜になり、滞在中に一緒に暮らしたケニア人青年と始めた、ケニアの農村でのコミュニティプロジェクト「SAWA YUME KENYA」では、完成したゲム村コミュニティセンター建設にも関連したお話をお聞きいただければと思います。

■ 日 時 平成 26 年 6 月 29 日 (日) 14 : 00～16 : 45  
(受付開始 13 : 30～)

■ 場 所 名古屋市青少年文化センター 9 階 第 3 研修室  
(名古屋市栄 ナディアパーク)

\*参加無料・先着 45 名様・申し込み方法は裏面をご覧ください。

\*F A X 申込用紙は別紙をご使用ください。



## \*参加申し込み方法

\*講演会参加申し込みは FAX 及び E-mail にて承ります。

F A X:052-933-1588 (平日 10:00~19:00)

折り返し講演会参加証(葉書)を送付いたします。当日ご持参下さい。

下記住所欄には送付可能なご住所のご記入をお願いします。

E-mail: [africa@asante-nagoya.com](mailto:africa@asante-nagoya.com)

氏名、連絡先が必要です。いただいたアドレスへ事務局から返信いたします。

4日以上経ても返信が届かない場合はお手数でも事務局までご一報下さい。

申し込み期日は6月20日(金)とさせていただきます。

尚、一定数に達した場合はご参加をお断りする場合がございます。ご了承下さい。

## \*会場案内



名古屋市青少年文化センター [アートピア]

■名古屋市中区栄三丁目18番1号■

TEL 052-265-2088 FAX 052-265-2187

※公共交通機関をご利用ください。

### 【交通アクセス】

- ・地下鉄東山線・名城線「栄」下車 南へ徒歩7分
- ・地下鉄名城線「矢場町」下車 5・6番出口より西へ徒歩5分
- ・市バス「白川通大津」下車 西へ徒歩2分(栄18号系統)
- ・市バス「ナディアパーク」下車 西へ徒歩2分(栄758系統)

事務局：名古屋市東区葵1-25-1 ニッビル906 TEL/FAX：052-933-1588

ホームページアドレス：<http://asante-nagoya.com>

フェイスブックアドレス：<https://www.facebook.com/asante.nagoya>